

市立病院の建て替え

市立病院は10年程前（市庁舎・市民会館建設頃）より赤字経営が続いていました。北堀市長就任2年目より黒字経営となり、財政面で前提条件が整ったため、市立病院の建て替えを決断するに至りました。前市長が12年間で建て替えや診療科目の充実等を掲げながら、耐震補強で十分使用可能な庁舎・市民会館の建て替えを優先、それも約49億円の予定だったものを、およそ85億円にも増額して建設しました。



福岡資磨厚生労働大臣を訪問
市立病院建て替えや医師不足について陳情しました。

せめて追加分の36億円程度を新病院・診療科目の充実に向けていたなら、もっと早期に市立病院の建て替えに着手できていたはずで、秩父市民の利益としては誠に残念な結果でした。

市立病院の建て替えに関し北堀市長は、市議・県議時代からの人脈を生かし、福岡資磨厚生労働大臣や、一昨年の知事選で秩父都市後援会長として全面支援した大野元裕埼玉県知事等の全面協力を得て、国・県・市一体となって頑張ってくれたいと思います。

学校給食費無料化の実施

北堀市長が4年前に初当選したとき学校給食費の補助率は35%でした。厳しい財政の中55%まであげ、今回は完全無償化（補助率100%）とします。また、北堀市長はランドセルの購入費補助を全国に先駆けて実施しています。秩父市の未来のため、子育て・教育の充実を力をついでいます。

2月に三原じゅん子内閣府特命担当大臣（こども政策・少子化対策・若者活躍・男女共同参画・共生共助）女性活躍担当大臣、共生社会担当大臣に面会し、秩父市の子育て支援の更なる充実を要請、「できる限りのお手伝いをさせていただきます。」との返答をいただきました。

三原じゅん子内閣府特命担当大臣を訪問
子育てに対する支援の更なる充実をお願いしました。



この4年間で

北堀市長は就任直後、小鹿野町長さんより、「阿で、ミュージアムがあるのに、全国植樹祭の会場打診を断ったのですか?」と連絡が入り、寝耳に水の話で、事の次第を調べてみたところ、県より全国植樹祭の会場に適した会場はあるかとの問い合わせに対し、市職員が市長の判断を仰がずに自身の判断で「ありません」と断ったことが分かりました。県担当者としても秩父ミュージアムを会場候補に挙げる考えでしたが、思わぬ返答に困惑、小鹿野町長さんに相談し市長さんに再考していただくべく連絡したとのことでした。前市長さんは様々な案件を職員に任せる方式に陥っており、**天皇皇后陛下をお迎えしての全国植樹祭の会場の問い合わせすら市長には相談せず、職員の判断で決定できる体制になってしまっていました。**危機感を感じた北堀市長は、細かいことまで市長に判断をおおぐよう体制を改革しました。

緑と清流の秩父に全国植樹祭を誘致しようと運動を始めているのに、**条例違反の埋め土・沢への土砂搬入が続けられ逮捕者まで出ている現状がありました。**10年前から地元の市議から再三の中止要望がありながら、前市長は市職員に要望無視を指示していた疑惑があり、北堀市長は身の危険を感じながらも断固搬入阻止を決断しました。

北堀市長は就任直後、海外視察旅行の話を職員より打診されました。北堀市長は厳しい財政を考えても、市を空ける時間的余裕も無いことから、海外視察を断りました。

前市長は1期目の3年目にアメリカ、タイ、スウェーデン、韓国の4回を公費で海外旅行。2期目当選するとその年にタイ、フランス・イタリア、韓国、3期目当選した翌年は韓国、タイ、中国、アメリカの4回等々、その他全在任期間を調べたところ、**計17回の海外旅行を繰り返していたことが判明しました。**随行と称して抱持を同行させ、仮に1回100万円とすれば、約1,700万円の市税が使われていたことが推測されます。

市長が替わると過去の市長さんの考え方・行動等が判明します。特に直近の市長の市政運営の姿勢が判明します。前市長さんにすれば庁舎建設のおよそ85億円の決定経緯や土砂の不法搬入、市立病院の先送り、海外旅行等、問題にされたくない案件があったと思います。しかし、**北堀市長は、この4年間、前市長への追求はせず、新しい秩父建設のために前を見て市政を運営してきました。**

前市長さんは市長への復活が無理と判明すると、北堀市長に反目する人物に自身を売り込み、自分の分身としてパスター・チラシを作成。後援会も自分に近い人、北堀市長に利権を切られた人、私利を欲する人等を集め、当事者の主義主張はもとより親交もない人たちが後援会の役員に揃え、支援態勢を構築しています。

私利の野心を隠し、名前と顔を変えた『**かいらいグループ**』に秩父は任せられません。



なぜ『北堀あつし』なのか？

北堀あつしさんは、市議会議員2期8年、埼玉県議会議員4期14年を経て、現在市長を務めています。埼玉県議在任14年の間には、総合政策委員会委員長、少子・高齢福祉社会対策特別委員長、緊急経済対策特別委員会委員長等を歴任し、担当の埼玉県職員と連日勉強を重ねてきました。

関口昌一参議院議長が埼玉県議会議員の時代においては、関口さんが秩父郡部、北堀さんが秩父市選出で2人ともに若手県議として秩父都市発展のため手を携えて活躍されました。関口さんは参議院議員に出馬する際、北堀さんに秩父郡部も兼ねた議員としての仕事を頼んだことで、秩父都市連合後援会長の就任も引き受け、関口さんが国で活躍されるための支援を続けてきました。関口さんは参議院議員に連続当選し、現在参議院議長になられた今も、北堀さんとは固い絆で結ばれています。



関口昌一参議院議長へ
秩父地域の環境保全を陳情



大野元裕埼玉県知事の
秩父都市後援会長として



親族の小泉龍司元法務大臣と
国に握手

また、小泉龍司衆議院議員とは親戚で、出馬にあたり、北堀さんと両親の北堀満三・松子夫婦で親戚をまとめ上げ、物心両面で応援したことは語り草になっています。

埼玉医科大学の創業者である丸木家と北堀家とは、親子三代にわたり親密に交際しており、特に先代丸木清治理事長が県議会議員時代には、北堀さんが丸木派の主要メンバーとして会派を支えていました。先日埼玉医科大学へ子息の清之現理事長を訪ね、秩父市立病院に小児科の医師の派遣を決定していただくとともに、「北堀市長さんのために、できる限りの協力は惜しみません。」との言葉をいただきました。

北堀市長は、秩父随一の政界・県職員・あらゆる層の人脈と信頼関係を持っており、一朝一夕で作れる人間関係ではありません。

この **北堀市長の財産** を **使おう・利用しよう・働かせよう！**



中野洋昌国土交通大臣を訪問
水循環政策担当・国際園芸博覧会担当
（公明党所属）
3月13日に国土交通省大臣室に伺い、水道料金の住民負担の軽減、長尾根トンネル、定峰トンネルの早期実現の陳情を行いました。
「秩父市のために、お役に立ちたいと思う」
との返答をいただきました。

1期目の難しさ

だれしも就任1期目は諸業務が多忙で、政策の変更、職員の把握、国・県との信頼関係の構築などに労力が費やされてしまいます。近年新たな街づくりで評価されている横瀬町富田町長さんも2期目からの活躍ですし、小鹿野町森町長さんも目を見張る活躍は2期目からです。

北堀市長の真価をより発揮できるのは 2期目 です。

4年後の秩父市政

秩父には市政を託したい人物が多数おります。

まずは新井豪県議。彼は県議4期目で副議長を経験し、県庁内でも高評価で国政を狙える方です。

阿佐美健司県議は2期目で日本一の頭脳企業キーエンス勤務の経験があります。

宮川浩司市議も行政司法書士として秩父を知り尽くしており豊富な人脈をお持ちです。

高野佳市市議は市議会一の頭脳の持ち主と言われており理路整然の政策を掲げます。

また、青年会議所・商業青年経営者研究会等で活躍している若手経営者や、家業を継承させ教育委員を経験し埼玉県商工会議所青年部の会長も務めた経営者などなど、他人の権を干渉すること無く、堅実にリーダースhipのある方が多数おります。

このような方々がやがて市政を牽引してくださると期待しますが、そのための路線引きと人脈構築に、今はなんとしても北堀市長の力が必要です。

北堀あつし市長に、次の4年間も任せましょう。